

景観文化財の継承と活用

～神戸港、旧居留地の事例～



日本列島は災害の多い土地です。2016年も熊本地震、鳥取地震、台風10号、糸魚川火災などがあ
い次ぎました。いつ起こるか分からない災害に、普段からどう備えるか。私たち一人ひとりが問われていま
す。災害予測は困難ですが、それでも1995年の阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)をはじめ、過去に
あった災害について理解を深め、「その時」何が起こりうるか、何が出来るかを考えるのは可能です。

今回は神戸港と旧居留地の景観と、歴史的な文化財を取り上げます。阪神・淡路大震災から立ち直っ
て来た神戸の町から、20年以上前の地震直後の姿を想像するのは容易ではありません。地域での景観
や文化財を活用する取り組みなどから、現在も残る震災の影響や、災害の記憶を伝えることの意味へと
思いを致していただけたいと願っております。なおこの企画展は、学生たちによるグループ学習の成果発
表を兼ねています。学修の過程を見守り、暖かい励ましをいただければ幸いです。

2017. **4.14** Fr. – **5.24** We.

会場:神戸大学海事博物館 開館時間:月・水・金曜日 13時30分～16時 ※4.29 Sa.～5.7 Su. は休館

2017. **6.12** Mo. – **9.8** Fr.

会場:神戸大学社会科学系図書館

開館時間:月～金曜日 8時45分～21時30分 土曜日 10時～19時 ※日・祝日、8.11 Fr.～8.16 We. は休館